



## JRグループ労組連絡会 第17回分科会プロジェクト

JRグループ労組連絡会（JR連合）は12月12日、2020春季生活闘争方針やJR連合ビジョン(案)にグループ労組の意見を反映させるため、大阪市内で「第17回分科会プロジェクト」を開催した。JR連合に集うグループ労組93単組から100名を超える役員・活動家が集まる中、JR九州連合からは幹事会メンバーを中心に11名が参加した。

主催者を代表してあいさつした八木大星代表幹事（JR西日本連合・NEESCO労組）は、「2020春闘において、JRグループ労働者に相応しい労働条件を目指すとともに、様々な課題を解決していこう」と訴え、JR連合に集うメリットを最大限に活用した情報交換を行うことを呼びかけた。

来賓として出席した荻山市朗会長（JR連合）は、安全の確立がJR連合としての最大のテーマであることを前提に、「離職防止に歯止めをかけるためには働き続けられる環境整備が必要であり、連合が提唱する『分配構造の転換』や同一労働同一賃金の法改正に対して職場からの検証が必要である」と、JR連合の考えを示した。そのうえで、JR関係労働者の総結集に向けて策定中である「JR連合ビジョン（案）」に対してグループ労働者の意見を反映させる取り組みを求めた。

討議では、業種毎に8チームの分科会に分かれて「2020春季生活闘争」と「JR連合ビジョンの策定」の2つのテーマについて意見交換を行った。討議後は、JR九州連合の淵上副会長が運輸（整備）分科会の報告を行うなど、各分会から2020春闘においてベースアップを柱とするJR連合統一要求のほか、これまでの労使協議において残された課題の継続協議など、各単組の決意が表明され、JR連合や各エリア連合に対しては、本体における十分な成果の獲得とグループ労使協議への支援が求められた。また、JR連合ビジョン（案）に対しては、グループ会社における人材の確保・



＜第17回分科会プロジェクト＞

定着のほか、役員育成や組織強化などのグループ労組を取り巻く課題が報告され、JR連合に集うことのメリットをアピールしていくことが求められた。

最後に、討議の結果報告を受けた北村公次事務局長（JR連合・労働政策部長）は、「人材不足や離職防止については、労使で対応していく必要があり、テーマを絞って協議を行う」「全てのJR関係労働者の総結集を目指すJR連合ビジョンは、周知徹底を図る場を設定してほしい」などとまとめを行い、第17回分科会プロジェクトは閉会した。



＜分科会報告する淵上副会長＞